

心理学理論と心理的支援

問題 8 次の記述のうち、レスポナント(古典的)条件づけの事例として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 デイサービスの体験利用をしたら思ったよりも楽しかったので、継続的に利用するようになった。
- 2 自動車を運転しているときに事故に遭ってから、自動車に乗ろうとすると不安な気持ちを強く感じるようになった。
- 3 試験前に時間をかけて勉強することで高得点が取れたので、次の試験前にも勉強に時間をかけるようになった。
- 4 おもちゃを乱暴に扱っていた子どもに注意をしたら、優しく扱うようになった。
- 5 工事が始まって大きな音に驚いたが、しばらく経つうちに慣れて気にならなくなった。

問題 9 記憶に関する次の記述のうち、展望的記憶の事例として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 日本で一番大きな湖は琵琶湖だと知っていた。
- 2 以前行ったことがあるケーキ屋の場所を、思い出すことができた。
- 3 子どもの頃に鉄棒から落ちてケガしたことを、思い出した。
- 4 10年ぶりに自転車に乗ったが、うまく乗ることができた。
- 5 友人と遊園地に行く約束をしていたので、朝から出掛けた。

問題 10 ピアジェ (Piaget, J.) の発達理論に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 感覚運動期には、「ごっこ遊び」のようなシンボル機能が生じる。
- 2 前操作期には、元に戻せば最初の状態になることが理解され、可逆的操作が可能になる。
- 3 前操作期には、自分の行動について、手段と目的の関係が理解できるようになる。
- 4 具体的操作期には、コップから別の容器に水を移したときに液面の高さが変化しても、量は変わらないことが理解できる。
- 5 形式的操作期には、思考の自己中心性が強くみられる。

問題 11 エリクソン (Erikson, E.) の発達段階説における各発達段階の課題に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 乳児期では、自発性の獲得である。
- 2 幼児期後期では、信頼感の獲得である。
- 3 学童期(児童期)では、親密性の獲得である。
- 4 青年期では、自律感の獲得である。
- 5 老年期では、統合感の獲得である。

問題 12 ストレスに関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 汎適応症候群(一般適応症候群)における警告反応期とは、ストレス状況にうまく適応した時期のことである。
- 2 汎適応症候群(一般適応症候群)における抵抗期とは、外界からの刺激を長期間受け、生体のエネルギーが限界を超えた時期のことである。
- 3 ホメオスタシスとは、外的内的環境の絶え間ない変化に応じて、生体を一定の安定した状態に保つ働きのことである。
- 4 タイプA行動パターンには、他者との競争を好まないという特性がある。
- 5 心理社会的ストレスモデルでは、ある出来事がストレスになり得るかどうかに、個人の認知的評価が影響することはないとされている。

問題 13 心理検査に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 ウェクスラー児童用知能検査第4版(WISC-IV)は、対象年齢が2歳から7歳である。
- 2 ミネソタ多面人格目録(MMP I)では、日常生活の欲求不満場面を投影法により測定する。
- 3 改訂長谷川式簡易知能評価スケール(HDS-R)は、高齢者の抑うつを測定する。
- 4 ロールシャッハテストは、図版に対する反応からパーソナリティを理解する投影法検査である。
- 5 矢田部ギルフォード(YG)性格検査は、連続した単純な作業を繰り返す検査である。

問題 14 心理療法に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 精神分析療法では、無意識のエス(イド)の活動と、意識の自我(エゴ)の活動とが適切に関連するよう援助する。
- 2 家族療法は、家族問題を抱える個人を対象とする療法である。
- 3 遊戯療法(プレイセラピー)は、言語によって自分の考えや感情を十分に表現する方法であり、主として心理劇を用いる。
- 4 系統的脱感作法は、四肢の重感や温感、心臓調整、呼吸調整、腹部温感、額部涼感を順に得ることで、心身の状態を緊張から弛緩^{しかん}へと切り替える。
- 5 臨床動作法は、「動作」という心理活動を通して、身体の不調を言語化させる療法である。